【活動報告】藤沢翔陵高校の文芸・新聞部と「仕事選択と働き方」をテーマに交流しました

TRI ツナグ働き方研究所
TSUNAGU work style Research Institute

ツナググループのシンクタンクとして、調査・研究を行っています。

ツナグ働き方研究所は、多様な働き方と労働市場基盤整備を目的に変化する労働法制を分析し、
企業に役立つ解説と提言を使命とするシンクタンクです。

ツナグ働き方研究所について

ツナググループを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関（2015年設立）。研究所では、企業人事や労働法制の分野で活躍する識者らとともに、施行される労働法制の要所と着眼点を解説していくほか、改正に至るまでの経過や背景も記録・分析しながら「あるべき姿」を提言。「働く」を取り巻くあらゆる労働法制の調査・研究機関として「雇用の未来」を拓きます。

ツナググループ・ホールディングス　概要

日本の社会課題である「2030年労働需給GAP解消」を目指す、ソリューションカンパニーであるツナググループは、コンサルティング×RPO(採用代行)×データベースを基軸事業として、従業員1,000名を超える大手企業を中心にあらゆるソリューションを提供しております。

【略歴】ツナグ働き方研究所 所長 大野 博司

労政ジャーナリスト
兼 アドバンスニュース代表取締役（主筆）

1970年、青森県出身。中央大学大学院戦略経営研究科（MBA）修士。
1994年、日本新聞協会加盟の地方紙に入社。社会部と政経部で教育、スポーツ、水産、港湾物流などを担当し、2004年に報道デスクに就任。2005年に東京支社で国会取材兼論説委員。海外取材は韓国、中国、オーストラリアなど訪問。このほか、2006年のイタリア・トリノ五輪の現地取材を担当。2009年に人材ビジネス系月刊誌の編集部長に就任。2010年にインターネット報道を主体とする雇用労働の専門媒体・株式会社アドバンスニュース（日本インターネット報道協会加盟）の設立に参画し、現職は代表取締役（主筆）。

日本外国特派員協会会員の労政ジャーナリストとしてHR系雑誌に執筆・寄稿しているほか、NHKラジオ「Nらじ」やFMラジオ「J wave」などに出演して多様な働き方、地方の労働力、外国人就労などをテーマに解説。2013年はアメリカ・フロリダ州の雇用問題取材、2014年はオランダ政府招聘による欧州の雇用・労働関係取材、2015年は中国の香港・広州、2019年はベトナムをはじめアジアの雇用現場の現地取材に奔走。政治と省庁、人材ビジネスの最前線で先行取材をこなす。

出版

『派遣法・抜本改正の爪痕（キロク）　報道現場からの真実の叫び－淘汰と再編が加速する人材業界』
（2016年アドバンスニュース）

『実務詳解 職業安定法（共著）』（2023年 弘文堂）

●定期発表レポート

月次労働市場データレポート
月次有効求人倍率速報
スポットワークマーケットレポート

●代表的なセミナー/出版活動

セミナー

『人材サービス事業を後押しする労働法制と業界地図
～派遣法見直しの舞台裏・労政審「同一部会」佳境へ～』
『派遣法2025　人材サービスを巡る「数字」と「法制」
～報道現場から解析する次なる展開と要所～』
『障害者雇用を巡る2027年の法制とメディアの姿～
事業者団体の意義と存在価値の考察～』

●取材・出演

NHK「Nらじ」　テーマ：スポットワークの広がり
FM「J wave」　テーマ：アルムナイについて
テレビ東京　テーマ：オフピーク定期券について
星野高等学校（埼玉県）　テーマ：多様な働き方を考える

藤沢翔陵高校の文芸・新聞部（神奈川県）と「仕事選択と働き方」をテーマに交流 ～日本外国特派員協会で活発にディスカッション～

ツナグ働き方研究所（大野博司所長）は11月15日、神奈川県藤沢市にある藤沢翔陵高等学校の文芸・新聞部の生徒たちと「仕事選択と働き方」をテーマに交流しました。将来を描きながら、就きたい仕事とそれに向けた学びのあり方に関心を持つ生徒たちと、所長の大野が所属する公益社団法人・日本外国特派員協会（東京都千代田区）で活発なディスカッションを展開しました。

公益社団法人・日本外国特派員協会（東京都千代田区）

ディスカッションの様子

冒頭、大野がテーマを掘り下げる切り口として、注目度が増している「最低賃金」の決定方式や上昇の背景、影響を受ける人たちを解説。続いて、「仕事はどう選ぶ」「好きなことを仕事にできる？」「ブラック企業ってどういう会社は？」などについて、生徒たちが日ごろの興味・関心事を挙げながら掘り下げました。

「ツナグ働き方研究所」と「藤沢翔陵高校」の取材後記

ディスカッションで交流を深めた後は、日本外国特派員協会の記者会見室や会議室、企画展示物、図書ルーム、ダイニングルームなどを見学したほか、報道機関や記者の仕事といった話題に広がり、研究所として藤沢翔陵高校の生徒たちの新鮮な視点や意見に触れることのでき有益な交流会となりました。

生徒たちと引率してくださった文芸・新聞部顧問からは、「貴重な経験をさせていただきました。憧れの日本外国特派員協会を会場に意見交換ができ、夢のようでした。日本が抱える労働環境や、労働条件。また、高校生が感じる将来への不安などを共有し、新たな発見が私自身にもありました。教育の立場から、子どもたちの未来を拓けるよう、不安や悩みに寄り添える大人でありたいと強く感じました」との言葉を頂戴しました。

文芸・新聞部生徒のコメント

・日本の最低賃金の解説は丁寧でわかりやすかったです。質問をしたとき、一つの疑問から社会の様々な視点につなげることができ、広い視野で社会る必要性を感じました。今回の交流会は、良い経験になり、有意義な時間を過ごすことができました。

・日ごろ体験できない場所で、新鮮な気持ちになることができ面白かったです。とても有意義なお話を聞かせていただき、重な時間になりました。

・私は、最低賃金の仕組みについてよく知りませんでしたが、所長の大野さんのお話で幅広く知ることができました。特に、最低賃金の決め方についての話は印象的でした。労働者の代表と経営者の代表が話し合って決めるという決め方。また、都道府県別の決め方に見直しの必要があるという話も興味深かったです。

・交流会を開いてくださりありがとうございます。ディスカッションの場所となった会見室隣りのVIPルームが、日ごろどのような使われ方をしているのかなど、特別な話を教えていただきました。別のフロアに隠れるようにあった“MASUKOMI SUSHI BAR”（寿司屋）の暖簾に書かれていた、“真酢米”の言葉遊びも面白く、それも印象に残っています。貴重な体験をありがとうございました。

藤沢翔陵高等学校

概要：藤沢翔陵高等学校は、神奈川県藤沢市に所在する私立男子高等学校である。学校法人藤沢翔陵学園が運営する設置者は時宗総本山清浄光寺を母体とする学校法人藤嶺学園で、藤嶺学園藤沢中学校・高等学校や鵠沼高等学校は兄弟校である。

HP　：https://shoryo.ed.jp/

藤沢翔陵高等学校

多様な働き方の広がりのなかで変化する労働法制を分析し、役立つ提言と解説を発信している「ツナグ働き方研究所」では、これからの社会を担う大学生や高校生たちの活動を応援・サポートする取り組みを展開していきます。

ツナグ働き方研究所

TRI

TSUNAGU work style
Research Institute